

# LEIO だより

(1) 畜産環境技術研究所  
(2) LEIO日誌  
行事  
人事異動

## 畜産環境技術研究所

### メタン発酵消化液を利用した飼料稲栽培技術の開発

メタン発酵処理の後に残る残渣（消化液）は、原料のふん尿に含まれる窒素、リン、カリが残存しており、良質の有機質肥料として、水田、畑地、養液栽培、水耕栽培等への利用技術の確立が求められています。畜産環境技術研究所では、緊急開発事業のなかで「メタン発酵残さ利用促進等技術開発事業」において、水田への利用に着目し、消化液を利用した飼料稲栽培技術の開発を実施しています。

消化液を水田の水口から施用するこれまでの試みでは①消化液の運送や施用作業に手間がかかる、②消化液が水田に均等に広がらない、③消化液を施用する量とタイミングが明確でないといった問題点が指摘されています。本試験では、水田の近くに消化液貯留タンクを設置し、パイプラインにより水田に流し込む実験装置を作製しました（写真1）。これを栃木県内の農家ほ場（約41a）に設置し、今年5月か

ら飼料稲「リーフスター」の栽培試験を行いました。試験区は、全施肥について窒素とカリウムを消化液でまかない、不足分のリンのみを化学肥料で補填しました。その結果、施用作業の手間を削減し、生育ムラの少ない良好なイネの生育となりました（写真2）。しかし、高度化成肥料にて栽培した対照区と比べ、収量が8割程度に留まりました。また、試験区（全長110m）では、消化液投入口から70m離れたあたりから収量の低下が見られました。

次年度は、実験装置の改良により水尻の収量低下を改善し、施肥設計の見直しにより高度化成肥料と同等の収量が見込めるようにした試験を計画しています。この試験により消化液による飼料稲栽培技術の確立を目指し、有機質肥料としての利用促進の一助とする予定です。



写真1 消化液散布実験装置



写真2 収穫前の消化液施用飼料稲

## I 平成21年6月～平成21年11月までの出来事

### 総務部

・平成21年6月12日(金)

平成21年度第1回評議員・理事会(於:虎ノ門パストラル)

### 平成21年度耕畜連携たい肥利用推進研修会の開催日程

研 修 会 名	開催共催県・農政局等	開 催 年 月 日
第1回耕畜連携推進研修会	沖縄総合事務局	平成21年7月8日
第2回耕畜連携推進研修会	群馬県	平成21年8月11日
第3回耕畜連携推進研修会	宮崎県	平成21年9月15日
第4回耕畜連携推進研修会	三重県	平成21年10月6日
第5回耕畜連携推進研修会	福島県	平成21年10月26日
第6回耕畜連携推進研修会	沖縄総合事務局	平成21年10月30日
第7回耕畜連携推進研修会	岡山県	平成21年10月30日
第8回耕畜連携推進研修会	愛媛県	平成21年11月6日
第9回耕畜連携推進研修会	奈良県	平成21年11月24日
第10回耕畜連携推進研修会	北陸農政局・石川県	平成21年11月25日
第11回耕畜連携推進研修会	東海農政局	平成21年11月27日

## II 平成21年12月以降の予定

### 平成21年度耕畜連携たい肥利用推進研修会の開催日程

研 修 会 名	開催共催県・農政局等	開 催 年 月 日
第12回耕畜連携推進研修会	北海道	平成21年12月8日
第13回耕畜連携推進研修会	鳥取県	平成22年1月19日
第14回耕畜連携推進研修会	岐阜県	平成22年1月20日
第15回耕畜連携推進研修会	九州農政局	平成22年1月26日

### Ⅲ 人事異動

#### 【理事】

就任(21.7.1付)

新城 恒 二  
土屋 純 夫

退任(21.6.30付)

大野 芳 美  
鹿志村 均

#### 【監事】

就任(21.7.1付)

木村 元 治

退任(21.6.30付)

鎌田 啓 二

#### 【職員】

採用(21.10.1付)

工藤 茂

退職(21.6.30付)

木村 康 男  
鈴木 隆

退職(21.9.30付)

西塚 修 悟

